

研究授業「演習Ⅲ」の実施報告

山 口 直 木*

Working report of experiment lesson “practice Ⅲ”

Naoki Yamaguchi

要約

平成27年度前期の研究授業として「演習Ⅲ」の授業を行った。授業内容は、学生同士の融和、論理的思考の2つをキーワードとして、学生の作ったロジックツリーに対して意見交換を行うスタイルである。学生同士の融和というのは、本学では仲間同士でしか会話をしない学生が多いため、他の学生の意見に関心である。そのことは、グループワークの難しさにも繋がっていると感じている。また、論理的思考というのは、本学の学生にとって非常に重要なことであるが、通常の授業でそれを教えることは大変であり、そのため、ゼミなど少人数の授業で教える必要があると考えている。

参観した教員の意見はおおむね好評であった。また、授業の意図を理解してくれた教員も多く、自分の感じている問題が自分だけが感じているものではないという実感を得ることができ、有意義な研究授業であった。

キーワード：学生の融和、論理的思考、ロジックツリー

(Abstract)

This report is described in experiment lesson “practice III” at fiscal year 2015. The aim of this lesson is friendship between students and acquisition of logical thinking. I made students debate about a logic tree made by student. Friendship is very important, but in our university, students communicate only in same group and have no interest in a student of other groups. As the result, difficulty has formed in group work. Logical thinking is very important for student. Because it is difficult to get logical thinking in lecture of many students, it is important to teach local thinking in seminal.

The opinion of the enrolling teacher was good reputation in general. A progress of the lecture is easier than usual one by teachers who understand the aim of the lecture. I felt that the importance of friendship and acquisition of logical thinking was shared by

* 提出年月日 2015年11月30日、高松大学経営学部教授

enrolled teachers.

KeyWords : Friendship between students, Logical Thinking, Logic Tree

はじめに

平成27年6月19日金曜日5校時に第5演習室にて研究授業「演習Ⅲ」を実施した。「演習Ⅲ」は、いわゆるゼミナールであり、卒業論文を書くための準備を行うことを目的としている。そのためには、テーマを構造化することの重要性を理解させることが大事であると考え、当初はシステム工学の基礎を行おうとしたが、各学生の学力差が大きく、通常の輪読形式の方法ではゼミ運営が難しいと感じた。また、学生の融和も重要であると考えた。そのため、ロジックツリーを作らせ、それに対して1人3回以上の意見を述べるという形式に変更した。ロジックツリーとは、論理的思考のためのフレームワークの1つであり、演繹法によってテーマを階層構造で表現するものである。ゼミナールでは、正しいロジックツリーを作ることが目的ではなく、学生の融和、論理的思考の2つを目標としている。1人3回の意見を出すためには、くだらない質問や重箱の隅を突いたようなものがあり、それが笑いを誘い、ゼミの雰囲気は格段に良くなったと感じている。ロジックツリーを使うことにより、テーマを構造化して考えるということを多少なりともが理解してくれていると感じている。

1. 実施内容

(1) 研究授業

日 時	平成27年 6月19日 5校時
場 所	第5演習室
科 目	演習Ⅲ
担 当	山口 直木
講義形式	演習
対象学年	経営学部 3年次生
参観教員数	経営学部教員 12名

(2) 検討会

研究授業に引き続き、第5演習室で行った。

2. シラバス

科目名：演習Ⅲ

担当教員：山口 直木 (YAMAGUCHI Naoki)

【授業の紹介】

本ゼミナールは、システムの問題を見つけ、その原因を分析し、解決策を提案することを目的としています。システムと聞くとコンピュータと思うかもしれませんが、システムの定義は、＜機能が異なる複数の要素が密接に関係しあうことで、全体として多くの機能を発揮する集合体＞ということなので、会社、学校はもちろん地域社会なども1つのシステムと考えることができます。

前期のゼミナールでは、システム工学の考え方を中心に授業を進めていきます。

下記の授業予定は、受講生の理解度に応じて変わることがあります。

【到達目標】

問題発見・解決のための考え方を理解すること。

【成績の評価】

授業中の態度、発表内容等を元にして、総合的に判断する。

【使用テキスト】

システムズアプローチによる問題解決の方法－システム工学入門

池田將明（著） 森北出版

【参考文献】

適宜指示する

シラバスの詳細は、教務システムを参照してほしい。

3. 本時の概要

(1) 目標

- 意見交換を行うことにより、学生間の融和と他人の考えに対して意見を述べる難しさを理解する
- ロジックツリーの作成を行うことにより、論理的思考の基礎的を身に付ける

(2) 授業内容

まず、代表学生に自らが考えたロジックツリーを板書させ、説明を行わせる。次に、他の学生は1人3回を目標にそのツリーに対する意見を述べる。代表学生はその意見に答えることにより、もう一度、考えを整理することができると考えている。また、他の学生は意見を述べるために、説明を聞き、自分なりにロジックツリーに対する理解を深めることができると考えている。

(3) 指導上の留意点

意見の出しやすい雰囲気を作るということがもっとも大事であると考えている。そのため、的外れであったり、整理ができていない場合には、フォローをしたり、意見がまとまるように誘導をしたりしている。ロジックツリーを作るということより、議論することを目的としているため、ロジックツリーに関して、それほど深くは追求しないが、明らかに間違ったロジックツリーの場合には、指摘し修正を加えさせる。

4. 学生の状況

元気の良い学生が多く、ほとんど物怖じしないため研究授業としては非常に活発に意見交換ができたと考えている。また、参観教員が授業意図を理解し、積極的に発言してくれたことにより、普段よりもやりやすさを感じた学生も多かった。しかし、人前で話することが苦手な学生もあり、その学生は出席をしないという問題点が発生した。当学生には後日指導を行った。

5. 授業に対する評価

(1) 授業を積極的に評価できる点

評価はおおむね好評であった。特に、ロジックツリーを自分の授業でも利用したいという意見は非常にうれしかった。これは、本学の学生は物事を一面的に捉え、分からないことが出てくればその時点で考えることを止めることが多いと考えているので、「考え方」を教えることの難しさを共有できたと感じたからである。

ゼミの雰囲気が良いとの意見もあり、このようなタイプの授業をしている目的なので結果が出ていると感じた。

(2) 授業の改善にかかわる点

現在、ロジックツリーのテーマは特に決めていないため、さまざまテーマがあり、それを絞ったほうが良いとの意見が出た。これはもっともな意見であり。卒業論文のテーマ決定、概要作成に向け、テーマの絞り込みを行って生きたいと考えている。また、使用教室やパワーポイントの利用等の意見も今後の参考にしたいと思っている。使用教室は長年、ゼミナールはコンピュータを使うということが続けていたので、第5演習室を使っているが、現在の授業方法では、小さな講義室のほうが使いやすいと缶変えており、来年度以降は、そのようにしたいと思っている。

まとめ

平成27年度の前期研究授業として、「演習Ⅲ」を行った。授業では、ロジックツリーの作成とそれに対する意見交換を行わせ、グループワークと区分原理の基礎、また、意見を出し合うことにより、学生同士の融和を図ることを目的としている。授業の雰囲気は非常に良く感じており、参観した教員からも同様の意見が出た。今後の課題としては、ロジックツリーに代表されるように論理的な思考を学生に定着させ、卒業論文へとつなげて生きたいと考えている。

執 筆 者 紹 介

岡本	丈彦	高松	松大	学学	経経	営営	学学	部部	講講	師師
川崎	紘宗	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	講助	師教
竹内	由佳	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	助卒	生授
花城	清紀	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	教准	授授
松中	裕太郎	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	准卒	生生
末包	昭彦	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	卒卒	生授
溝渕	利博	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	教教	授授
向居	曉詞	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	准講	師授
竹谷	美ね	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	教准	授授
川原	あか	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	准講	師授
山口	直木	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	教准	授授
山田	美季	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	教准	授授
藤井	明日	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	教准	授授
山田	純子	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	教准	授授
井上	巳子	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	教准	授授
高塚	順教	高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	教准	授授
田中		高高	大大	学学	経経	営営	学学	部部	教准	授授

研 究 紀 要

第64・65合併号

平成28年 2 月25日 印刷

平成28年 2 月28日 発行

編集発行 高 松 大 学
高 松 短 期 大 学
〒761-0194 高松市春日町960番地
TEL (087) 841-3255
FAX (087) 844-4759

印 刷 株式会社 美巧社
高松市多賀町 1 - 8 - 10
TEL (087) 833-5811